(昭和49年生)

回り回って初志貫徹

東区・紫南支部
(紫原たはら医院)　徳留　京子

1回目の年女となった小学生6年生のとき，廃校寸前の小さな小学校で校長先生が卒業生12人ひとりひとりに直筆で色紙を書いてくださいました。わたしの色紙には「初志貫徹」。当時わたしには学校の先生になるという夢がありました。小規模校ゆえに，複式学級で年下の児童に算数やそろばんを教える機会に恵まれ，それが楽しくて楽しくて…教師になる夢をきっといつか叶えるのだ，とその一心で中学，高校と進学しました。わたしの心の中にはいつも「初志貫徹」の4文字がありました。

そして迎えた高校3年の冬，担任の先生に「医学部を受けてみなさい」と言われ，(どうせ不合格だから，第二志望で教育学部を受ければいいのだ) と密かに決めて「はい，受けます」と返事をしました。ところが，結果はまさかの医学部合格。その日から，わたしは教師ではなく医師のへ道を歩むことになりました。いざ入学してみれば全国から集まった個性派ぞろいの同級生たちと，負けないぐらいに個性派ぞろいの先生たちに圧倒され，とても楽しく充実した学生生活を送ることができました。一方で心の中の「初志貫徹」はいつの間にか薄れてしまい，とにかく少しでもいい医師になることを目標に仲間と一緒に切磋琢磨する日々を過ごしていました。

2回目の年女となった24歳のとき，猛勉強の甲斐あってわたしは医師の仲間入りをしました。研修医の生活は実に忙しく，知識も度胸もないのに患者さんや目上の先生方からは一丁前に「先生」と呼ばれ，なんとも落ち着かない毎日を送っていました。そんな研修医生活も2年目を迎え，なんとまだ小ベンのわたしに1年目の研修医が密着することになりました。彼はなんでも疑問に思うとすぐに質問するタイプで，「アンプルとバイアルの違いって何ですか？」「え？あー，手でパキっと割れるかどうか，かなー」「そうなんですね！わかりました！」メモメモ…そんな孫ベンちゃんを曲がりなりにも指導しながら，わたしは教えることの楽しさに再び目覚めつつありました。ちなみにこのときの孫ベンちゃんは，今は立派な循環器内科医として活躍なさっています。

その後3度の出産を経て，臨床を離れ解剖学講座の助教に就任しました。当時の決まりで講義は担当できませんでしたが，解剖実習では直接指導し，口頭試問も担当しました。女子学生ばかりの実習班からは実習後の鍋パーティーに誘われ，鍋をつつきながら女性医師の仕事と子育てのリアルを伝授しました。そんなある日，元同級生の外科医から研究室あてに突然一本の電話がきました。「君，今研究ばっかりで時間あるでしょ？専門学校で内科の講義やってくれない？」「は？わたしが先生？」「というわけでよろしく！」このたった1分間程度のやり取りがこのあとわたしの運命を大きく変えることになりました。

3回目の年女となった36歳のとき，わたしは専門学校の教壇に立ち「学校の先生」とし

て教育の楽しさに目覚めていました。1年生には解剖生理など基礎の基礎を，2年生には内科学全般，3年生には国家試験対策。その後あちこちの専門学校から依頼を受けるようになり，気付けば週に6〜7コマの講義をするほど教育ざんまい。通常の診療業務と産業医業務，教育業務のスケジュール調整や分単位の移動が自力だけでは困難となり，夫にアシスタントをお願いして小さな会社を作り正式に教育業を始めました。

4回目の年女となった今年も，わたしはあちこちで「先生」として走り回る予定です。鹿児島県の医療の質をさらに向上させるために，暗記だけに頼らず自分の頭でよく考える看護師・理学療法士・診療放射線技師を育てることも大切であると考えます。この夏には長女が教員採用試験を受けることになり，回り回って初志貫徹することができそうです。36年前にこの言葉を授けて下さった亡き恩師もきっと喜んでくださることでしょう。